

■企業会計

区分		当初予算額	前年度比
水道事業会計	収益的収支	収入	8億4,928万円 △0.3%
		支出	8億2,409万円 1.3%
	資本的収支	収入	1億1,016万円 56.2%
		支出	3億9,807万円 △10.9%
※資本的収支の差については、損益勘定留保資金、減債積立金、消費税および地方消費税資本的収支調整額で補てん			
下水道事業会計	収益的収支	収入	10億3,953万円 △1.6%
		支出	10億3,046万円 △0.5%
	資本的収支	収入	6億9,995万円 6.4%
		支出	10億4,961万円 △1.9%
※資本的収支の差については、損益勘定留保資金、消費税および地方消費税資本的収支調整額で補てん			

特定の収入がある事業については、お金の出し入れを分かりやすくするため、一般会計とは分けて管理しています。市には、5つの特別会計と2つの企業会計があります。

■特別会計

区分	当初予算額	前年度比
国民健康保険	32億8,393万円	△3.4%
財産区	8,203万円	△6.3%
育英事業	531万円	11.9%
介護保険	37億2,088万円	0%
後期高齢者医療	3億9,526万円	△1.8%

令和3年度 南陽市の予算

コロナ禍克服に向けた積極的予算を計上

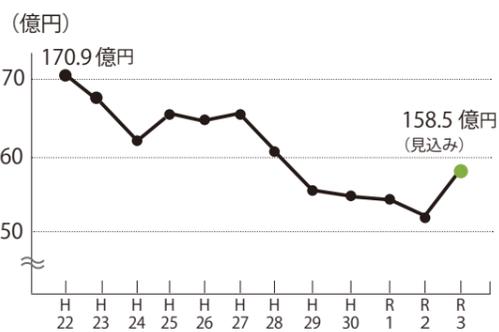
一般会計予算総額

経常収支比率 96.0% (前年度 96.3%)
実質公債費率 12.3% (前年度 11.5%)

161億9,000万円

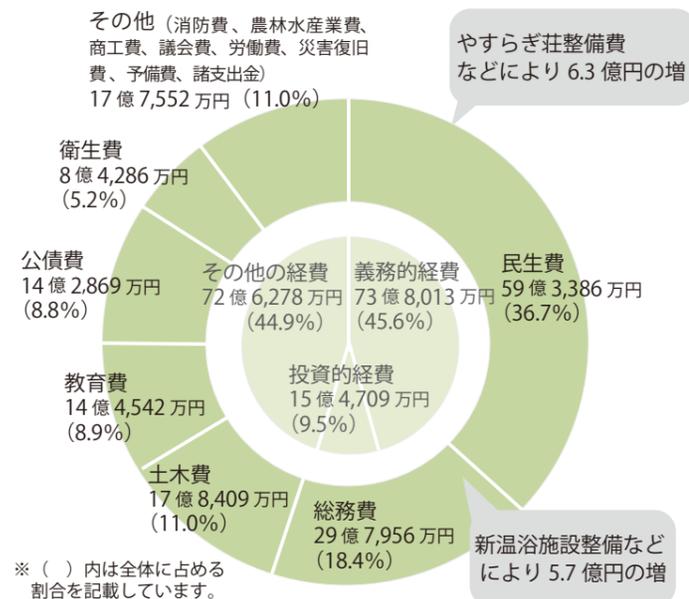
前年度比 +13億7,000万円

借入金残高の状況



財政基盤を強固にするため、借入金残高を減らしてきましたが、今年度はコロナ禍の局面を乗り切るため財政出動を図り、借入金残高は、ここ数年に比較すれば増加しますが、10年ほど前に比較すると10億円以上少ない額にとどまります。

一般会計の歳出



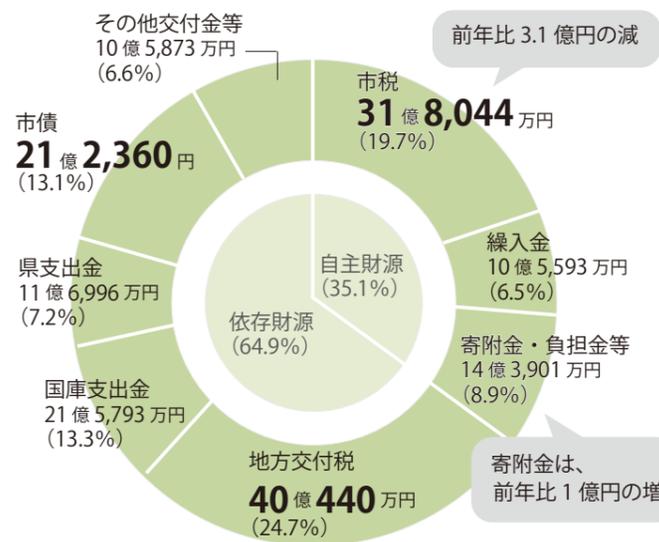
※()内は全体に占める割合を記載しています。

歳出については、民生費は、置広事務組合負担金(やすらぎ荘整備費)などにより59億3,386万円(11.9%)の増となりました。

義務的経費に含まれる人件費は、会計年度任用職員の増などにより27億3,003万円(0.4%)の増となり、扶助費は児童手当、児童措置委託料などの減により32億2,143万円(0.7%)の減となりました。

投資的経費は、新温泉施設整備事業などの大型事業により15億4,709万円(53.7%)の増となりました。

一般会計の歳入



歳入については、市税は、新型コロナウイルス感染症の影響により31億8,044万円(19.7%)の減、地方交付税は、前年度交付実績や人口の推移など各種補正を勘案し、40億440万円(24.7%)の増を見込みました。

また、国庫支出金は、認定こども園施設整備交付金などの増から、21億5,793万円(13.3%)の増、寄附金は、ふるさと納税の増加見込みから、8億500万円(14.3%)の増としました。

市債は、投資的経費の増加などにより、21億2,360万円(13.1%)の増を見込みました。

令和3年度予算編成は、市税の大幅減少により、歳入面がかつて無程の厳しい編成となりましたが、将来にわたって持続可能な財政運営を基本方針として、先行して対処すべき新型コロナウイルス感染症対策のための事業や、市民生活に直結する事業に重点的に予算措置を行いました。

コロナに対処した積極的な財政出動を実施

一般会計では、スピード感を持って課題に対応することを重視し、前年比9.2%増、当初予算としては過去最大となる161億9千万円を計上しました。特別会計では、前年比1.7%減の74億8741万円を計上しました。

引き続き、国の施策を注視し、財政の効率化・適正化を図りながら、行政運営に努めます。

TOPICS

国の交付金を活用 新温泉施設整備費 4.35億円の負担減

今年度実施する主要事業である、新温泉施設建設費用6.71億円は、全額市の持ち出しとして令和3年度当初予算に計上していましたが、令和2年度の国の交付金が採択され、市の実質負担は2.4億円程度となる見込みです。

これにより、令和3年度の当初予算としていた温泉施設整備にかかる費用を減額し、令和2年度の補正予算とする手続きを3月議会において行いました。

※当初予算について、詳しくは市ホームページをご覧ください。

南陽市 当初予算 検索